

日々の田高（嶺町地区学校防災活動拠点訓練）

令和6年12月7日（土）午後に嶺町地区学校防災活動拠点訓練が行われ、本校からは1年生生徒及び指導者として3年生の生徒1名が参加しました。

この防災訓練は、高校生の防災意識を高めるとともに実践的な力を身に付けるために、地域の諸機関と連携して行う取り組みです。一方、本校に隣接する東調布第一小学校と東調布中学校は地域の避難所として指定されており、毎年学校防災活動拠点訓練として、地域の方々の訓練が行われていました。

本校としては、高校生が、地域の防災訓練に参加することで、地域の中の一人として、何ができるのか考え、体験する機会となることをねらい、3年前から合同して訓練を実施しています。この訓練は、本校生徒が体験して学ぶ側面と、地域住民の方々が、本当の災害の際の対応について学ぶ側面があります。

嶺町地区の5町会と隣接する町会、消防署、消防団、大田区、医師会、薬剤師会、災害時医療職ボランティアなど、多くの方々とともに、本校生徒が様々な訓練に参加させていただきました。以下、当日の様子です。

		
<p>AED 訓練</p>	<p>ストレッチャーの操作の体験</p>	<p>応急救護訓練：消防団員の方から教えていただく</p>
		
<p>応急救護訓練：防災士の資格を持つ3年生から教えてもらう</p>	<p>煙体験</p>	<p>初期消火訓練</p>

		
<p>起震車体験 震度6や7の体験をしました。</p>	<p>投光器の紹介：カセットボンベによる発電で点きます。</p>	<p>地域住民の方による避難所開設訓練に避難者役として生徒が参加</p>
		
<p>避難所開設キットも用意され、住民の方々は、マニュアルに従い動きます。</p>	<p>外国人の家族という役で避難所に避難してきた役をする生徒たち（東一小）</p>	<p>避難者役として、避難所で、受付を済ませて、待機している生徒（東中）</p>
		
<p>トリアージ訓練 生徒（オレンジ色）は負傷者として参加し、医師などの聞き取りに答える。</p>	<p>トリアージ訓練 軽症者と分類された負傷者役の生徒は、薬剤師から処方を受ける。</p>	<p>仮設トイレ （マンホールへの直結タイプ）</p>
		
<p>段ボールベッド組み立て体験</p>	<p>水が来ることを想定した土のう積み体験</p>	<p>正解は、水圧で倒れないよう平積みします。</p>

<訓練に参加した生徒の感想を一部紹介します。>

- 分かりやすく一つ一つを教えてくれてとても分かりやすかったです。特に、消火体験のときの「ピノキオ」はとても覚えやすいと思いました。今度は起震車に乗りたいと思いました。
- 避難者役として参加し、外国の人たちへの対応や配慮ももっとしていきたいと感じた。
- 応急救護訓練を初めて体験。先輩の話で、けがなどで友達が、処置が必要なきに使えると聞き、ためになると感じた。応急救護訓練は、災害だけでなく日常のけがでも活用しやすいと思った。
- 視覚障害の人に対して避難場所までどのように同行するのか決めてほしい。初めての場所だとわからないと思う。
- 家族（子供）が病気のとときに親は一緒にいるのか、分かれて隔離するのかわかりづらかった。
- 高校生の私たちでもできることが多いことを実感できた。また、土のうの積み方について、私たちも体験して正しい積み方を知ることができてよかった。
- 消防隊の方々は厳しかったけど、それぐらい大変な状況があること、ドラマだけの話じゃないんだと実感できた。
- 段ボールベッドが、思ったより頑丈で驚いた。災害時にとても役立ちそうだと感じた。
- 車いす体験や AED はやってみないとわからない難しさがあると気づいた。今回様々な体験で新たに知ったことがたくさんあるので忘れないようにし生かしていきたいと思う。
- 起震車に実際に乗ってみて、震度 6 弱でも揺れが強くて大変だなと感じたけど、先生が震度 7 を体験したときに、ゆれに体もっていかれていて、震度 6 弱とは比べ物にならなくて驚いた。また、能登半島での地震も震度 7 くらいと聞いて、怖さを実感することができました
- 川が氾濫し、浸水してきた時にどのように道を歩けばいいか、足取られないようにするか学びたい。